



【環境】キャラクター「ちつきゅん」

札幌市立あやめ野小学校



○ 未来を想う
Think Green
環境首都・SAPP_RO

今できることから始めよう!
～「環境首都・SAPP_RO」を目指して～

「さっぽろっ子環境ウィーク」における SDGs アクション

宣言

「私たちの月寒川エコアクション」



SDGsアクション

「月寒川の豊かな自然を未来につなぐため、身近な足元からエコアクションをはじめよう」

【川チーム】川の生き物と治水の歴史

札幌の川の歴史と治水工事

札幌市には数百もの河川があり、月寒川の源流は滝野方面から豊平川へつながっていることを確認しました。古い河川図との比較から、かつて蛇行していた川が人々の生活を守るための治水工事によって現在の姿になったこと、川底の急激な浸食を防ぐための「落差工」が学校の目の前にあることなどを学びました。

水生生物の観察と「トミヨ属淡水型」

実際に川の淵で講師が網を使って生き物を捕獲する様子を観察しました。ドジョウ、トミヨ、ウグイ、タニシ、オタマジャクシ、アメンボ、エビなどを発見。特に環境の豊かさを測る「環境指標」となるトミヨ属淡水型(きれいな冷水を好み、オスが巣を作ってメスを誘う生態)について詳しく教わり、一見濁って見える月寒川が、実は非常にきれいな川であることを実感しました。

【陸チーム】周辺の植生と生き物のつながり

身近な植物の観察と注意点

堤防の地面に這う「ツタウルシ」について、かぶれを起こす危険性があるため触らないよう葉の特徴を学びました。その後、川沿いを歩きながらオニグルミ、シラカバ、ブタナ、コウリンタンポポなどの身近な植物の特徴を観察しました。

昆虫・野鳥と樹木の共生関係

シラカバの木に穴を掘って成長するゴマダラカミキリムシの生態を学び、実際の穴を観察しました。また、校地内の木にあるアカゲラ(キツツキ)のつついた跡について、「なぜ木をつつくのか」をみんなで考えました(虫を食べる、巣作り、樹液をなめる等)。低い位置にある細長い穴はアリを食べた跡、丸い穴は巣であること、またアカゲラが害虫を退治した後は、樹木が自らのヤニや樹皮で傷口を塞いで治癒していくという「自然の再生力」についても学びを深めました。

成果

専門家の分かりやすい解説により、普段見慣れている月寒川が、歴史的な治水工夫や貴重な絶滅危惧種(トミヨ)を育む豊かな環境であることに気付くことができました。今回のフィールドワークで得た発見や各自の気づきを、デジタル端末等を用いて新聞やスライドにまとめ、クラス内で発表会を行う予定です。今回の学習を経て、学校での学びに満足するだけでなく、家庭や地域でも「ポイ捨てをしない」「水を大切に使う」など、持続可能な社会の担い手としての第一歩を踏み出します。

次年度の取組に向けて

札幌市環境プラザとの連携による体験活動は、身近な自然の豊かさに気付く上で非常に効果的であった。次年度は、今回得られた学びをベースにしながら、児童が「自分たちにできること」を主体的に考えて日常生活の中で実践・継続できるような、一歩進んだ振り返りと事後学習の工夫に取り組みたい。

